



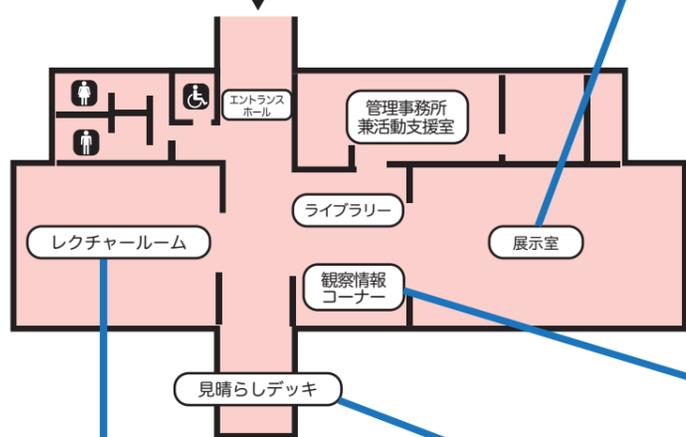
涸沼水鳥・湿地センター 展示施設 大解剖！

施設情報

所在地 茨城町下石崎2585-4
 開館時間 午前9時～午後4時30分
 入館料 無料
 休館日 月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、年末年始

展示室

涸沼について、様々な展示で学習することができます。スズガモやヒナイトンボなどの生物模型やミニ水族館を備え、生きものたちをじっくりと観察することができます。土・日・祝日には、専門家からの詳しい説明が受けられます。



レクチャールーム（要予約）

会議やワークショップなど、活動の拠点として利用できます。



見晴らしデッキ

シンボルツリーと涸沼の景色を一望することができます。



涸沼で発見されたヒナイトンボの20倍拡大模型は迫力満点！

観察情報コーナー

図書や望遠鏡を用いて、実際に観察しながら学習ができます。



茨城町ネットワーク等連絡協議会が美化活動を実施しました

開館にあたり、茨城町ネットワーク等連絡協議会のメンバーが、センター内プランターへの植込みと周辺の除草作業を行いました。今後も定期的に花の植替えや除草作業を行い、来館される皆様をお出迎えます！



特集

涸沼水鳥・湿地センター 展示施設



-Hinuma Waterbird and Wetland Center-

オープン！

■涸沼湖畔に展示・学習施設が開館
 ラムサール条約登録湿地である涸沼は、関東唯一の汽水湖（海水と淡水が入り混じる湖沼）です。ヤマトシジミやウナギなどの様々な生きものが生息し、特にスズガモなどの渡り鳥にとっては、越冬地、繁殖地、休憩地として重要な役割を果たしています。こうした豊かな自然に恵まれた涸沼のほとりに、「涸沼水鳥・湿地センター（展示施設）」がオープンしました。

この施設は環境省によって整備され、ラムサール条約、涸沼の歴史や生きものに関する資料が充実しています。「20世紀最後の新種のトンボ」として発見されたヒナイトンボについては、拡大模型と説明により、その希少性を詳しく学ぶことができます。また、涸沼の伝統漁法であるシジミ漁やウナギ漁については、漁船や漁具の展示があり、涸沼を活用した産業を具体的に理解できるよう工夫されています。

館内のミニ水族館には、ウナギ、シジミ、沈水植物、淡水魚の大型水槽が備えられ、水生生物を身近に観察し、その生態を学ぶことができます。

涸沼に面した観察情報コーナーは、子どもから大人までを対象にした環境関連図書を読み、気軽に野鳥観察を楽しむことも可能です。

水鳥をはじめとする野生生物の保護と湿地の保全、賢明な利用の推進拠点として活用しながら、地域の活性化を図っていきます。皆さんのご来館をお待ちしています！

開館によせて

令和6年11月9日（土）に行われたオープン記念式典では、環境省関東地方環境事務所神谷洋一所長をはじめ、小林宣夫町長など関係者が集い、テープカットが行われました。開館にあたって小林町長は、「涸沼が生物多様性のゆりかごとして、多くの動植物種の生存を支えていく存在であり続けるために、センターを拠点として活発な交流と学習を推進し、涸沼の魅力を広く発信してまいります」とあいさつしました。



センター職員一同、皆様のご来館をお待ちしています！

【問合せ先】
 涸沼・水鳥湿地センター 展示施設
 ☎029(303)6530(直通)